

群 教 セ	E03 - 03
	平 18.234 集

互いに認め合い高め合える生徒の育成

ーランチタイムトーキングの実践と振り返りを通してー

特別研修員 蓮舎 芳義 (藤岡市立北中学校)

《研究の概要》

本研究は、中学1年生を対象に、体育祭、合唱コンクールへの取組を通して、互いに認め合い高め合える生徒の育成を目指したものである。具体的には、給食の時間を活用したランチタイムトーキングを通して、各行事に向けた日々の取組をクラス全員で振り返る活動を繰り返し行った。これにより、理想のクラスに向けた仲間の思いや願いを互いに認め合い、その上で実現に向けて働きかけ、高め合える生徒が育成できると考え、実践した。

○ はじめに

本学級(中学1年生 男子19名 女子16名 計35名)の生徒は、素直で落ち着いた生活を送っている。しかし、2学期に入り気の緩みからか、学校生活上のルールを守ることができなくなってきた生徒が出てきたりするなど、ルールとして決まっていなかったことに対しては、前向きに取り組めない生徒が出てきたり、クラスとしてのまとまりに欠けるという意見が多く聞こえるようになった。現状では、係活動や当番活動に力を注いだり、集団活動を通して充実感や満足感を十分に味わったりすることができていないように思える。

そこで、おそらく生徒一人一人の心の中にある「もっと学級を良くしていきたい」、「クラス全員でより高め合える学級をつくっていきたい」という願いを形にするために、給食の時間を利用した「ランチタイムトーキング」という振り返りの場を設定した。具体的には、事前に行うアンケートの結果配布やそれを見た一人一人の感想をクラス全員で振り返る活動を繰り返し行った。これらの実践をしていく中で、学級の中で協力することの大切さに気付かせ、それを体育祭、合唱コンクールでクラスが一丸となる活動に結び付け、互いに認め合い高め合う生徒を育成したいと考えた。

この振り返り活動を繰り返し行う実践は、自分のよさの再確認と相手のよさを認め合うことにつながり、協力することの大切さに気付くことになると考えた。したがって、この活動を継続して行うことにより、互いに認め合い高め合うことのできる生徒が育成できると考え、本主題を設定した。

I 研究の概要

1 基本的な考え方

(1) 認め合い高め合う生徒の育成について

生徒が互いに認め合うとは、互いが互いのことをよく知り、同じ目的に向けて、互いを肯定的にとらえることと考える。認め合いは、話し合い活動の基本であり、逆に、話し合い活動やその実現に向けた活動の中で認め合いも向上できることであると考えられる。実際の活動中での認め合いとは、クラスの一員としての自覚をもち、相手のよさを認めながら協力することと考えた。

生徒が互いに高め合うとは、互いに認め合う関係の中で互いの向上を目指し働きかけ合うことである。働きかけるとは、互いに声をかけ合ったり、困っていることを手伝い、時には相手の成長を期待して見守ったりすることである。相手のために行動し充実感・達成感を味わうことができると再び相手のために行動したいと考えるであろう。この繰り返しでクラス全体に広がっていくことが高め合える生徒の育成につながると考える。実際の活動中での高め合いとは、学校行事において一つの目標に向かい、互いに励まし合い協力し合う充実感・達成感を知り、行動できることと考えた。

2 研究の内容及び方法

(1) 研究の内容

研究主題の実現に向けランチタイムトーキングとその振り返り活動による下記の指導1～3を行うこととした。

○ 指導1

体育祭に向けたアンケートの結果をクラス全員に配布し、全員で振り返る。クラスの仲間一

一人一人の気持ちや願いを知ることにより、クラスのために協力する大切さを分かるようにする。

○ 指導2

合唱コンクールに向けた練習の中で、アンケートの集計結果やパートリーダーからの提言をクラス全員に配布し、生徒に振り返りの場をつくる。振り返った結果を再びクラス全員に返す活動を繰り返し行って行く中で、クラスの仲間の思いや願いをより強く意識させ、互いに一つの目標に向けて協力できる生徒を育成できるようにする。

○ 指導3

ランチタイムトーキングの振り返りシートや合唱コンクール後のアンケートから、合唱コンクールに向けた自分たちの取組を振り返る。自分たちが2つの行事を通して得たものを明確にし、それを今後の生活に生かそうとする意欲をもたせることにより、互いに認め合い高め合える生徒を育成できるようにする。

(2) 研究の方法

ア 「ランチタイムトーキング」の活用について

給食の時間の会話を利用して、クラス全員の考えていることを知り、自分の考えをより広げ深めるために行ったクラス全体を振り返る活動である。本校では給食の際、互いに向かい合って食べているので、その時間を利用すれば楽しく会話しながら振り返り活動ができるのではないかと考え実施した。給食の時間は、20分程度の短い時間であるため、事前に実行委員やパートリーダー等が振り返る内容について明確にした「ちらし」を作り、配布してそれを見ながら会話する。また、全員に振り返りシート（資料1）を配布し、その日のランチタイムトーキングで感じたことやその日の練習や活動の感想を帰りの会の時間に記入させた。

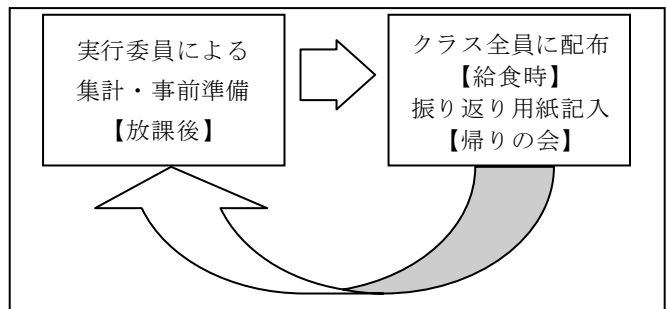
資料1 ランチタイムトーキング振り返りシート

Lunch Time Talking ☆ 振り返りシート		
氏名		
日付	感じたこと・思ったこと	自己評価

放課後、記入されたシートを実行委員やパート

リーダーを中心にまとめ、翌日のランチタイムトーキングで配布する「ちらし」の資料とした。

資料2 ランチタイムトーキングとその振り返り



資料2は、ランチタイムトーキングの流れを示したものである。このように一人一人が感じたことをクラス全員で振り返る活動を繰り返し行った。

イ 研究の構想図



○ 抽出生徒について

本研究の成果や課題を確認するために抽出生徒の追跡及び学級全体の活動の様子、アンケート、振り返りシートの記述について分析することとした。抽出生徒はA子とした。A子は、明朗な性格で、自身が好きなことは頑張れるが自分の気分が乗らないときは行動がにぶる傾向のある子である。

II 実践の概要

1 体育祭に向けたランチタイムトーキングの活用 (指導1)

(1) 指導の概要

本校の体育祭では、入場行進を採点し学年で一番優れた行進をしたクラスに最優秀行進賞が贈られる。各クラスの団結力が試される場としてどのクラスもこの行進の練習に力を入れている。そこで、体育祭での行進練習に向けたクラスの現状を把握するためにアンケートをとった。そして、生徒が思い描く理想のクラスを強く意識させるために、その集計結果を実行委員に「ちらし」にまとめさせ、クラス全体で振り返る活動に活用し、10日間「ランチタイムトーキング」を行った。その過程において生徒が願う理想のクラスを実現させるために、「体育祭の行進練習への取組」について話し合いを行った。

(2) 実践のまとめ

資料3は、体育祭に向けたアンケートの結果である。これを見ると、体育祭でクラスの団結力が高まることを期待している反面、現実とは違う状況にあることがわかった。

資料3 体育祭に向けたアンケートの結果

体育祭に向けて理想とするクラス

- ・協力できるクラス (13人)
- ・団結力のあるクラス (13人)
- ・他人のことを考えられるクラス (5人)
- ・一生懸命頑張れるクラス (3人)

今のクラスの現状

- ・協力できていない (13人)
- ・力を合わせることができないが不十分 (11人)
- ・わがままな人がいる (9人)
- ・一生懸命頑張っていない (5人)

初回のランチタイムトーキングの「ちらし」として資料3のアンケート結果を配布した。生徒はみな興味深そうに「ちらし」を見ていた。現状が

理想から遠いことを「予想通り」と発言している生徒がいる反面、「こんなに協力できていないと思っている人がいるのか」と驚きの声をあげている生徒もいた。そこで、クラス全員の「ちらし」を見た感想を把握するために、帰りの学活で振り返りシートを配布し、本日のアンケートを見た感想や近くの人と話した感想を記入させた。その中で代表的な意見を実行委員に集約してもらい、翌日の給食時に配布した。それを見た生徒から、「現状ではまともでないが、このままでいいわけではない」という発言や「なんとかしなければいけない」という発言が聞こえた。実際にこの日の振り返りシートには、「なんとかしなければいけない」という意見を書いた生徒が28人いた。

そこで、体育祭での行進練習に向けて協力することの意義を見いだすために、学級全体で行進練習への取組について話し合った。まず、始めにクラスの現状を全員で確認するために「今の練習はどのような雰囲気か」問いかけたところ、「わがままな人が多い」という発言が数名の生徒から出た。続いて「なぜ、わがままな人が多いのか」と問いかけたところ、「つい自分勝手な行動をしてしまう」という発言や「行進の練習は面倒」という発言が出てきた。この発言から生徒は自分たちの日頃の行動について見つめ直していることが伺えた。そこで、生徒の心の中にある思いや願いを形にするために、学級全体で『体育祭に向けた理想のクラス』としての思いや願いについて聞いた。すると、やはり「優勝したい」、「後悔したくない」という意見が数多く出された。その上で「どうすれば理想のクラスに近付けるか」少人数のグループになり話し合った。各グループから出された意見をまとめ、個人としては「わがままを出さない」、集団としては「自分勝手な人がいたら注意し合う」ということをクラスとして確認した。

その翌日の体育祭学年練習では、体育委員からの指示を素直に聞き入れる姿や行進の前に互いに「頑張ろうね」と声をかけ合う姿が見られた。実際に行進している姿も良くなり、前回の全体練習では一番下手と言われた行進が、この日の学年練習では一番良いと評価された。

資料4

- ・一番になれて本当に嬉しかった。
- ・今日の行進はよかった。本番もこの調子で。
- ・今日の行進はいつもよりも一生懸命できていた。
- ・話し合いの結果が行進に出ていた。よかった。
- ・行進で褒められてすごく嬉しかったみんなでそろえようという気持ちが行進に出ていたと思う。

資料4はこの日の生徒の振り返り用紙に記入してあった言葉である。これらの記述から生徒は自分たちの向上に気付いていることが伺えたので、この気づきをクラス全体に広げるために、翌日の「ランチタイムトーキング」ではこれらの言葉を「ちらし」として紹介した。すると、「やっぱ、俺たちはやればできる」とか「このまま行けるかも」という発言が聞こえ、また振り返り用紙にも同様の記述が見られた。そこで、再び翌日もこのような前向きな記述を多く「ちらし」に取り入れ「ランチタイムトーキング」で紹介した。すると、「絶対優勝しよう」、「みんなで協力して頑張ろう」などのより前向きな発言が聞こえ、振り返り用紙への記述も見られた。

資料5は、体育祭終了後に生徒が書いた「体育祭で学んだこと」の抜粋である。

なお、体育祭の結果は準優勝であったが、最優秀行進賞を獲得することができた。

資料5 体育祭で学んだこと

- ・みんなで協力することの大切さ。
- ・協力しようとみんなを信じて頑張れば、大丈夫だということ。
- ・仲間を信じること。
- ・悪いところを改善すること。
- ・みんなと一つの目標をもつこと。

これらの記述から、協力することの大切さ、団結することの喜びに気付いた生徒がいることが伺える。

資料6 A子の体育祭後に書いた練習に関する記述

- できれば、初めからできるクラスであっていい。
クラスで話し合ってから、できるクラスじゃなく、話し合いをしながらもできるクラスであっていい。
- ほとんどもと利はできたけど、
不がまだまだ多い。(自分も)

資料6の記述から、A子は今後理想とするクラスとして協力でき

るクラスを描いている。

また、クラスや自分の行動を振り返りよくなってきたところに気付くとともに今後の改善点についても目を向けるようになってきた。

2 合唱コンクールに向けたランチタイムトーキングの活用(指導2)

(1) 指導の概要

体育祭の行進練習への取組で気付いた協力することの大切さをより確かな実感とさせるために合唱コンクールでの練習に取り組んだ。実際には生徒の気持ちを把握するためにアンケートを実施し、実行委員が集約した「ちらし」や練習の現状をクラス全員で把握するための「ちらし」をつくり「ランチタイムトーキング」で紹介した。また、パートリーダーが上手に歌を歌うポイントまとめた「ちらし」もつくり18日間「ランチタイムトーキング」を行った。合唱コンクール1週間前には合唱コンクールに向けた学級活動を行い、今までの活動を振り返り、クラス一丸となって合唱コンクールに臨む気持ちを確認し合った。

(2) 実践のまとめ

体育祭直後にとった合唱コンクールに向けた事前のアンケートでは26人の生徒が「理想のクラスに近付いているがまだまだ不十分」と答えた。そこで、クラスの現状と生徒一人一人が願っている合唱コンクールに向けたクラスの姿について、実行委員を中心に「ちらし」を作成し、「ランチタイムトーキング」を利用し伝えた。すると、帰りの会の振り返りシートの中には、「みんな気持ちは一緒なんだ」、「本当に理想のクラスになれたらいいな」という記述が見られた。翌日の「ランチタイムトーキング」でこの意見を紹介すると、その日の振り返り用紙には「金賞を取りたい」という記述が多数見られ、合唱コンクールに向けた生徒の気持ちが高まっている様子が伺えた。続いて、この気持ちの高まりを練習につなげるために、パートリーダーが、練習に向けてのアドバイスを「ちらし」に書き、それを「ランチタイムトーキング」で配布した。するとその日の振り返り用紙には「歌う上でとても参考になった」、「パートリーダーのアドバイスに気を付けて歌いたい」などの記述が見られた。実際に集中して練習に取り組む姿や、自主的に練習場所に集まり練習をしている姿が以前より多く見られるようになった。

そこで、生徒一人一人の合唱コンクールへの気

持ちの高まりを全員で確認し、より強い団結を生むことを目的として合唱コンクール1週間前に学級活動で「感動的な合唱コンクールにするためには何が必要か」をテーマに話し合った。まずは、全員の今までの練習の自己評価の推移や振り返りシートへの記述を改めて振り返り、合唱コンクールに向けての気持ちの高まりを確認した。そして、一人一人に「クラスとして」、「パートとして」、「自分として」、感動的な合唱コンクールにするためには何が必要か考えさせた。生徒からは、「クラスとしていつでも仲良く助け合い練習に取り組む」、「大きい声で本気を出して歌う」、「自分がやるべきことをしっかりこなしてみんなを支えられるように努力する」などの意見が出された。

では、実際には何をして行けばいいのか、少人数のグループになって話し合い、画用紙に書いて発表し合った。そこには、「一致団結」、「一人一人がクラスのために頑張る」、「絆」という記述が見られた。これらからクラスが団結するためには一人一人の前向きな行動が必要であることに生徒が気付いていることが伺えた。また、その日の振り返りカードには「今日は最高の歌が歌えた」、「今日の話し合いでみんなの気持ちを知れてよかった。よりクラスがまとまった」という記述が見られ、それを翌日の「ランチタイムトーキング」で紹介すると、「今日の練習も頑張ろう」と練習に前向きに参加しようという発言が多く聞こえた。その後の練習では、「声の強弱に気を付けよう」というアドバイスや「絶対金賞を取ろう」と積極的に声を掛け合う場面が以前よりも多く見られた。

資料7は、合唱コンクール終了後、生徒が書いた合唱コンクールで学んだことの抜粋である。

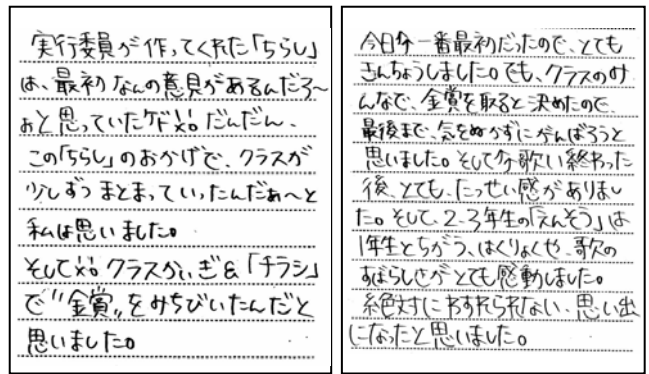
なお、合唱コンクールでは金賞を受賞することができた。

資料7 合唱コンクールを通して学んだこと

- ・みんなで一丸となる大切さ
- ・みんなを思いやる気持ち
- ・みんなの気持ちが一つになれば何でもできること
- ・自分の頑張りを認めてもらう嬉しさ
- ・友人の頑張りを認めることの大切さ

これらの記述から、生徒は一つの目標に向かい協力したときの充実感・達成感を十分に感じ取ることができたようである。

資料8 A子の合唱コンクール後の感想



「ちらし」について

合唱コンクールを通して

練習当初のA子は「ちらし」を見ても何も思わないとの振り返り用紙への記述の通り、練習にはあまり積極的に参加していなかった。しかし、「ランチタイムトーキング」や学級活動での話し合いが進むにつれ、「ちらし」を好意的に受け止め、練習に対する意欲も出てきた。実際にコンクール直前には、クラスのみなどと金賞をとりたいという強い意気込みで練習に参加していた。

3 体育祭・合唱コンクールを振り返って(指導3)

(1) 指導の概要

合唱コンクールで生徒一人一人が感じた一つの目標に向かい協力したときの充実感・達成感をクラス全員で振り返るために、合唱コンクールについて書いた全員の作文を文集にしてクラス全員に配布し読み合った。その後、学級活動で今までの活動を振り返り何を学んだか話し合った。

その上で、今後この学んだことを学級での生活の中にどのように生かしていくか考え、それぞれの行動目標を立てた。

(2) 実践のまとめ

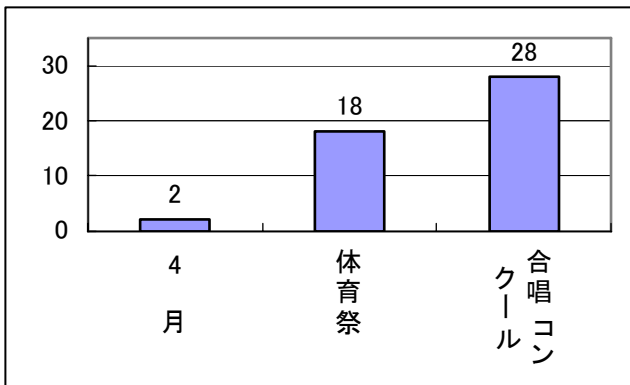
合唱コンクールの全員の作文を綴った文集を配布すると、生徒は大変興味深そうに読んでいた。自分が感じた感動を、クラスの仲間も感じているということに、生徒は喜びを感じている様子であった。また、この文集の表紙と裏表紙には、合唱コンクールで撮った写真を使用したため、最高の思い出となったと話している生徒が多かった。

合唱コンクール1週間後に今までの活動でクラスがどんなことを学び、そして向上してきたのか明確にするための学級活動を行った。4月当初のクラスの様子、そして体育祭・合唱コンクールにおいて「ランチタイムトーキング」で使用した振り返りカードを見ながら、9ヶ月間の活動や様子

について振り返った。

まず、4月当初のクラスの様子を聞いたところ、「緊張していた」、「違う小学校の子がいて協力することは考えられなかった」という意見が聞こえてきた。続いて、体育祭の頃はどうか聞いてみると、ランチタイムトーキングの振り返り用紙を見ながら考えた後、「わがままもあったけど、まとまる気持ちが出てきた」、「みんなと力を合わせて頑張ろうという気持ちが出てきた」という意見が聞こえてきた。これらの意見から、生徒は入学当初とは違い体育祭直前には認め合い・協力し合おうという気持ちが生じていたことに気づき、そのことを振り返っている様子が伺えた。続いて、合唱コンクールの頃のクラスの様子について聞いてみると、ランチタイムトーキング振り返り用紙を見ながら考えた後、「ものすごく団結していた」、「みんなクラスのことを大切に思っていた」という意見が聞こえてきた。合唱コンクールについては文集を配布したこともあり、多くの生徒が協力することの意義、クラスのために一人一人が力を出し合う大切さに気付いたことを振り返っているようであった。認め合い高め合う気持ちがどのように変化していったか、発言以外に学級活動の中で生徒が記述したアンケート結果からも伺える。

グラフ1 認め合い高め合えたと感じた生徒の人数



続いて、これまでの行事からどのようなことを学んだか、少人数で話し合い、発表した。

資料9 今までの行事から学んだこと

- ・みんなで協力して一つのことを頑張る大切さ (10人)
- ・一人一人がクラスのことを思い行動することの大切さ (7人)
- ・仲間・友人の大切さ (5人)
- ・一人でも欠けたらクラスではなくなる (3人)
- ・他人のことを考えて行動すること (2人)

これらの発表から、生徒は仲間を認め合うことの大切さ、自分のことだけではなく進んで人のために行動することの大切さ、みんなで協力し合った時の充実感を感じていることを感じた。

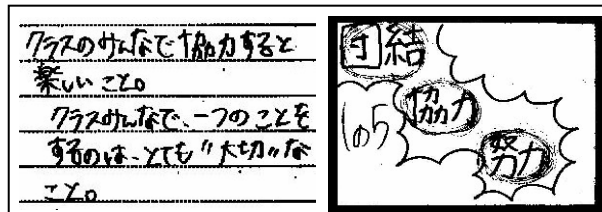
続いて、ここで学んだことをこれからの学級生活に生かしていくために、今後一人一人が心がけたいことを記述させたところ資料10のようになった。

資料10 これからの生活で心がけたいこと

- ・何事にも協力・団結すること (20人)
- ・みんなのために行動すること (5人)
- ・人の気持ちを意識して行動すること (2人)
- ・クラスのためにできることをする (2人)
- ・今まで以上に友人を大切にする (1人)
- ・認め合い、思いやり (1人)

ここには、記述内容としてほとんどの生徒が「協力」「団結」を記述していた。そこからは体育祭・合唱コンクールで得た成果を日常の活動の中にも生かしていこうという気持ちが伺えた。

資料11 行事から学んだこと今後心掛けていきたいこと



資料11は、抽出生徒A子のこれまでの行事から学んだこと、そして今後の生活で心がけて生きたいことである。A子はクラスのみんで協力することや団結していくことの意義を十分に感じていることが分かる。特に、クラスのみんで協力することを楽しいと記述したことからは、このことを自然と自分の気持ちの中に受け入れていることが伺える。また、今後心がけたいことの中に努力という言葉を入れていることから、積極的に自分から行動していこうという意欲も感じることが出来る。

実際にこれらの活動を行った後、A子をはじめ学級全体として清掃活動等の当番活動への積極的な取組が見られ、進んでみんなのために活動する生徒が増えてくるなど、学級全体に協力的な雰囲気が見られるようになった。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- クラスの仲間の考えていることを伝え、クラスとしての取組を振り返る場としてランチタイムトーキングを実施したことにより、一人一人が集団を意識して行動するきっかけをつくることができた。
- ランチタイムトーキングを毎日の活動として位置付けたため、日々の細かい変化や成長を全員で振り返ることができた。
- 「ちらし」を活用し、クラスの理想とする姿を常に思い描かせることにより、生徒は意識的に目標をもって取り組むようになった。行事を通して協力することや互いに高め合うことの大切さを実感させることができた。
- 行事を通して学んだことを振り返る話し合い活動を通して、ここで得た成果を今後の活動に生かしていこうという意欲を高めることができた。

2 課題

- 「ちらし」の内容として、クラスの現状の把握、クラスの理想の姿を示すだけではなく、例えば、「ちらし」の中にアンケートを盛り込むなどより有効な活用ができればよかったと思う。
- 学校行事だけではなく、日常の活動においても協力すること、団結することの大切さを実感させることはできたが、それを日々実践していくことが大切である。そのために理想とする姿を常に生徒に示し、そして集団の中の個としての役割についてより強く自覚させられるように、今後指導を継続して行っていきたい。

(担当指導主事 関口 満)

Web検索キーワード

【学級経営 中学校 学校行事 学級活動
振り返り】

(参考文献)

- 岸田元美著「学級話し合い活動の指導方法」
明治図書 (1991)
- 杉田儀作著「学級活動実践資料理論編」
暁教育図書 (1985)